

主な松くい虫対策事業

【伐倒くん蒸処理】

センチュウの活動により枯れてしまったアカマツに、夏から秋にかけて産卵されたカミキリを羽化脱出させないため、被害木を切り倒し、集積した後、薬剤により駆除します。

被害先端地（被害量が少ない地域）を優先して作業を行っており、市内すべての被害木の処理を行うことはできない状況です。



【地上散布】

カミキリがアカマツの若い枝や葉を食べることにより、松枯れの原因となるセンチュウが侵入します。噴霧機を利用して地上から健全なアカマツに薬剤を散布し、カミキリを駆除します。平成30年度から林道については樹幹注入へ移行したため、寺・史跡等のみ実施しております。



【薬剤樹幹注入】

健全なアカマツの幹に薬剤をあらかじめ注入することにより、侵入してきたセンチュウを駆除します。

予防効果が高く、薬効期間が長いとされる予防方法ですが、薬剤費が高く、人力作業のため作業範囲に限られます。

また、自治会で管理するアカマツに対して薬剤の支給を行っています。



【樹種転換】

守るべきアカマツ林の周辺を緩衝帯区域としてアカマツ林以外の樹木にすることにより、松くい虫被害の新たな区域への拡大を防ぐとともに、価値のあるうちに木材の有効利用をすることができる樹種転換事業に対し、国県と共に補助金を交付しています。

